



Vol.9

地域おこし協力隊が

○○したってよ！、活動だよ！、



私たちの事業を東京でPRできるようになった

こちらのコラムでも何度か紹介した、「笛吹市産マスタード」の開発事業。私たち協力隊員が原料から栽培し、特色ある調味料を作り笛吹市をPRしようと取り組んでいるものです。今夏完成に向けて鋭意開発中ですが、3月14日・15日には、東京でプレゼンテーションする機会がありました。1日目は、今回の事業が「地域おこし協力隊ビジネスアワード」を受賞したことを受けての報告会。会場には主催者である総務省の方々をはじめ、全国の協力隊制度の関係者約70人が集まりました。審査員からは、「目の付け所がユニーク。今後も期待しています」という言葉をいただきました。

2日目は、ビジネスプランを作るにあたって、共に研修を受けた全国の協力隊員に向けて現状を説明。この日は私たちのほかに、全国10組の隊員が登壇し、素晴らしい取り組みをたくさん聞くことができました。例えば、広島県安芸高田市の協力隊員は、森林の厄介者である「竹」を有効活用しようとして、孟宗竹のタケノコで希少な国産メンマの開発に取り組んでいます。また愛媛県宇和島市では、使い道のないミカンをジュースにして販売。「農家が飲みたいジュース」というコンセプトで「顔が見える商品」として売り出したところ、東京の高級百貨店などで好評を得ているとのことでした。全国には私たちと同じように「地域を盛り上げよう」と奮闘している隊員が4千人以上います。ぜひ注目してみてください。

